

小中学校のあり方意見交換会 議事録 (北川辺中学校区)

令和5年12月19日 15:00～16:30
北川辺文化・学習センター（みのり） ホール

参加者

幼稚園評議員及び小中学校評議員 14名

教育長・教育委員

小野田教育長、遠藤委員、松永委員、片山委員

校長・園長

山村北川辺中学校長、二階堂北川辺西小学校長、内河北川辺東小学校長、
小宮北川辺幼稚園長

事務局

斉藤生涯学習部長、中島学校教育部長、野本こども局長、高貫教育総務課長、清水学校教育課長、関口こども保育課長、岡田教育総務課主幹、野本学校教育課主幹兼指導主事、瀬高学校教育課主幹兼指導主事、澁谷学校教育課主幹兼指導主事、荒木こども保育課主幹兼指導主事、杉田教育専門員、中島教育総務課主事

意見交換

学校ごとにグループで話し合いを実施(校長同席、教育委員会職員も会話に参加)

会議資料

別添資料のとおり

幼稚園・小中学校評議員からの主な意見（学校ごと）

【北川辺幼稚園】

- 子育て世代や外国の方、高齢者をケアする若い世代を呼び込むなど、市の対策をするべきではないか。
- 以前、幼稚園の送迎バスがなくなったことで幼稚園が選択肢から外れることとなった。学校に通う際、近所に子どもがいないと登下校が一人になる。保護者は不安で送り迎えをすることとなり負担となってしまう。そうすると、学校から近い場所への引越しを検討することとなるため、送迎バスは必要である。

【北川辺西小学校】

- 統合はありと考える。
- 小規模校では競争心・協調性・人間性の部分で子ども達の成長に繋がらないのではないか。
- 1学年3クラスあると理想的である。
- 教師にとっても、成長できるという面で複数学級の方が良い。
- 今後統合を進めるにあたり、進め方が最も重要になる。
- 北川辺西小学校・東小学校の統合は良いという意見が沢山出るかもしれないが、加須市全体で統合を考えた場合（橋を越える場合）は、反対意見も多く出ると思う。その際は、一番に子ども達の気持ちを考え、判断して欲しい。

【北川辺東小学校】

- 小中学校の再編は、早急ではないが将来的には必要である。
- 北川辺西小学校・東小学校は校舎も新しいため、無理に一か所に集めなくて良いのではないか。
- 学校へ行くということが、社会へ出ていく上で大きな意味になる。
- 北川辺西小と東小でオンライン授業を同時に行うことで横の繋がりを作ったり、他校とオンライン授業を行ったり、他市と違う教育をすることが加須市の教育の特色となるのではないか。特色があれば、他市にはない魅力として加須市に通わせたいと思わせることができ、児童増に繋がるのではないか。
- 通学が遠い子どもたちのためにコミュニティバスの時刻表を合わせて登下校に使えるような仕組みを作っても面白いのではないか。

【北川辺中学校】

- 統合を考える際、人口増加策を並行して考える必要がある。

- 小中一貫校を考えたかどうか。
- 統合すると遠方の子は1時間以上かかるため、スクールバスが必要。
- 橋を越えての統合はしたくない。
- 昔から輪中と言われているようなところであり、人数が少なくなってもこのままで、特色のある学校作り・教育ができるのではないか。

幼稚園・小中学校評議員からの質問等

問 現在運行しているコミュニティバスは人が乗っている姿を見ない。バスは運行しているのに必要としている所にバスが走っていない。必要としている場所で活用すべきではないか。

答（杉田教育専門員） 今答えることはできないが、意見として持ち帰り、市長部局の担当部署に伝える。

問 再編は加須市だけの問題ではなく、羽生市や行田市でも話が進んでいると思う。市を越えての再編も検討に入れてみてはどうか。

答（杉田教育専門員） できなくはないが、極めてハードルが高いものである。

意見 不動岡高校への通学が非常に不便である。そのため、春日部や栃木へ流れてしまっている。解決できないと思うが、親の立場で話しをした。

問 学校の建物や教育方針を魅力的なものにし、近隣市だけでなく、他県在住でも、保護者が送迎をしてでも通わせたい、引越しをしてでも通わせたいと思わせることが大切ではないか。既成概念にとらわれず、考えていかななくてはいけないのではないか。

答（杉田教育専門員） 近隣市で英語教育に注力をする、小規模特任校制度を取り入れた学校があった。その学校区以外の児童の募集も募ったが、現状を打破するほどの人数は集まらなかった。小規模特認校では30人40人の児童生徒を動かすのは難しいという現状はある。